

# 青梅市文化財ニュース

第202号

平成16年8月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町1-684 TEL0428-23-6859）

## 綾広水道の碑

武蔵御嶽神社へ向かう参道を進み、神代ケヤキの雄大な姿を右手に見て、きつい坂道を終え、売店街を抜けた先の広場から、いよいよ300段を超える石段が始まります。この石段の手前の左側に手水舎（てみずや）があります。身を清めてから神社にお参りするために設けられているのが手水舎ですが、その水をはじめ、御岳山の生活用水は、そこから1kmほど奥まったロックガーデン（奥御嶽景園地）の上流の河鹿沢から引かれています。今日では当たり前のように蛇口をひねれば出てくる水も標高929mの御岳山では昔から大変な苦労があったようです。集落の中には5か所に井戸がありましたが水を運ぶために、どこの家でもお勝手や風呂場は門口のすぐそばに設置されていました。また、水汲みは、たいへんな力仕事であったため、かつては強力（ごうりき）と呼ばれる人たちが、それに携わっていたといわれています。

この手水舎の裏手に御岳山に水道が引かれた経緯（いきさつ）を記した『綾廣水道の碑』があります。川合玉堂の撰文と自筆になるみごとなものです。

余奥多摩の溪山に親しむこと年あり或る日某誌の為に  
御嶽神域の風光を語りし時此靈境に湧水の乏しき  
を嘆したることあり其記事図らすも動機を成して水道  
敷設の議起こり遂に紀元二千六百年記念事業として  
嶽奥綾廣瀧よりの引水工事竣工す今や社頭に部落に  
穰々として浄水の恵み普く実る千年の渴を医するもの  
と言ふへし是神徳の然らしむる所也而も余の瑣言端緒  
を為せしことに因り此水道の名並に由来の記を委嘱せら  
れたり依て瀧の名に因て綾広水道と命名し併て其由を記す

大前に生命の水と湧きたきち

なかれてやまし 綾廣水道

昭和十六年七月吉辰

玉堂川合芳識

御岳山に、しばしば滞在した玉堂は、ここで水の苦勞をよく理解していて水道の敷設に大きく貢献しました。碑文にもあるように御岳山の水道は玉堂のちょっとした話がきっかけになって実現しましたが、その工事が竣工して記念碑が建てられたとき、玉堂は綾広の滝の絵も描きました。その絵は、今も御岳神社の宝物殿の2階に展示してあります。

昭和15年、日本中が皇紀2600年の奉祝行事で沸き立っていた年に御岳山でも東京府から半額の補助金を得て、まず、水源から神社までの配管が行われ、翌16年に竣工しました。さらに17年には工費14,500円を各戸で負担して集落からケーブルカーの御岳山駅まで1680mの配管が延長されて全山に給水が始まりました。その管理は御岳山水道組合で行いましたが渇水期の断水や、たびたびの管の破裂などがあって、その都度、集落の人たちが集まって修理をするなどの苦勞は絶えませんでした。その後、昭和48年に青梅市管理の水道になるとともに、給水管の敷設替えが行われて水道組合も解散されました。

昭和4年に鉄道が御嶽駅まで延び、10年にケーブルカーが開通、17年に水道給水開始などの目覚しい変化から御岳山での生活も御嶽参拝も様相が変わり、ずいぶんと楽になりました。

(文責 須崎 直洋)

